別紙2

平成28年度大学コンソーシアムとちぎ　学生活動支援事業　報告書

機　関　名	白鷗大学
団体等名	白鷗大学茶道部　茶楽（さら）
学生代表者氏名 （所属・学年）	堀江麻以　（法学部　3年）
責任教職員氏名	教育学部教授　結城史隆

1．事業名	茶道を通しての地域交流、文化交流、次世代交流、復興支援
2．実施時期	①10月1日（土） ②6月18日（土）、9月3日（土）、12月10日（土） ③8月6日（土） ④9月12日（月）～13日（火）
3．実施場所	①益子町　（公財）濱田庄司記念益子参考館 ②小山市　まちの駅思季彩館　開運館 ③野木町　児童養護施設アリスとテレス ④福島県いわき市　関船団地集会所
4．事業の内容等	①　益子参考館茶会　～健やかなる茶　やぁやぁいらっしゃい～ ・茶席会場：益子参考館内　4号館　座敷　　参加者：121名 ・竹芸ワークショップ会場：益子参考館内　馬屋　参加者：20名 ・濱田友緒館長　ギャラリートーク「濱田庄司のくらしと茶について」 ②　～子供から大人まで～　茶道体験教室 ・会場：小山市まちの駅　思季彩館内　開運館 ・開催日時：6月18日（土）、9月3日（土）、12月10日（日） 午前の部　10時30分～12時 午後の部　1時～2時30分 ・募集人数：午前、午後、各クラス　10名ずつ ・内容：(1) 茶道の紹介 (2) お菓子のいただき方の説明、デモンストレーション→実践 (3) お茶のいただき方の説明、デモンストレーション→実践 (4) お茶会　お稽古した作法の実践と、お茶会の雰囲気を楽しみながら、お菓子とお茶を召し上がって頂く。 (5) 体験　実際に参加者が茶杓、棗、茶筅を使ってお茶を点てる。 (6) 交流、まとめ　参加者が点てたお茶を部員や、参加者同士でいただきながら交流を図る。 ③　アリスとテレス茶道体験教室 ・会場：野木町児童養護施設　アリスとテレス ・内容：(1) 和室での約束事、挨拶の仕方、立ち方、座り方の説明 (2) お菓子のいただき方の説明、デモンストレーション→実践

	(4) お茶のいただき方の説明、デモンストレーション→実践 (5) お茶会　実際にお茶とお菓子をいただく (6) 交流、まとめ　子どもたちが先生や、友達にお茶を点て交流を図る。 ・対象：幼児・小学校低学年／小学校高学年・中学生の２クラスに分けて茶道教室を開催した。 ④いわき市　茶道交流会 ・会場：いわき市復興公営住宅　関船団地集会所 ・内容：(1) 茶道の紹介 (2) お菓子のいただき方の説明、デモンストレーション→実践 (3) お茶のいただき方の説明、デモンストレーション→実践 (4) お茶会　お稽古した作法の実践と、お茶会の雰囲気を楽しみながら、お菓子とお茶を召し上がって頂く。 (5) 体験　実際に参加者が茶杓、棗、茶筅を使ってお茶を点てる。 (6) 交流、まとめ　参加者が点てたお茶を部員や、参加者同士でいただきながら交流を図る。
５．事業の成果と今後の課題	①　益子参考館茶会　～健やかなる茶　やぁやぁいらっしゃい～ 【成果】濱田庄司記念益子参考館館長の濱田友緒氏のご厚意により、すべてのお客様に濱田晋作氏、友緒氏作の菓子鉢や、お茶碗にてお菓子や、お茶を差し上げることができたことは大変好評であった。 また、竹芸家八木澤正氏による竹工芸ワークショップ、濱田友緒館長による講演会「濱田庄司のくらしと茶について」にも参加し、学生はもとより、来客者の方々にも「益子焼」や、「竹芸」など栃木県の誇る文化を再認識してもらうことができたことは大変大きな成果である。 表千家栃木県青年部の方々と共に茶席を担当したことにより、日頃の部活動では得ることのできない貴重な勉強をさせていただいた。 【課題】茶道部ではこのような正式な茶会をする機会がないので、着付けや着物での立ち居振る舞い等、慣れないことも多く、青年部の皆さまに大変お世話になった。このような機会を目標にさらに稽古を積んでゆきたい。 **②　～子供から大人まで～　茶道体験教室** 【成果】幼稚園児からご高齢の方まで、また、海外からの方にも毎回ご参加いただくことができた。また、繰り返し参加してくださる方が増えた。 難しく思われがちな茶道だが、学生が教えていることにより、気軽で和やかな雰囲気の中で本格的な茶道に触れることができると好評である。 お茶を通して、地域の方々や参加者同士の交流も図ることができ、その出会いが発展していくことは、大変嬉しいことである。 【課題】現在、お道具の運搬、水屋の設営、撤収を茶道具商三京堂さんがしてくれている。学生がお道具屋さんと協力して担当できる部分を増やし

たい。三京堂さん、会場、学生の日程調整を早めに行うようにしたい。

③茶道体験教室　野木町児童養護施設　アリスとテレス

【成果】「お茶のこころ」（ものを大切にする心・友達を大切にする心・ありがとうという感謝の心）が作法に繋がっていることを伝えることに重点を置きながら活動をしたことにより、小さな子供達も自然とお茶の作法を会得することができた。

　また、和室での決まり事や、挨拶の仕方など、実生活に役立つ内容を取り上げた点も好評だった。

　和やかな雰囲気作りを心がけ、一緒に片付けなどもしながら穏やかな時間を共に過ごすことができ、子供たちも喜んでくれた。

　また、昨年の体験教室の内容をよく覚えている子供もおり、「もっと来てほしい」と言われたことは大変嬉しいことである。茶道を通して子供たちの笑顔を見ることができ、学生自身が何らかの役に立てるという実感を得られたことは、個々の学生の励みともなっている。

【課題】　現在年に１回であるが、回数を増やしたい。

④茶道交流会　いわき市復興公営住宅　関船団地集会所

【成果】ＮＰＯ法人とちぎユースサポートネットワーク主催の復興支援プログラムの中に「茶道交流会」を組み込む形で実現した。

復興公営住宅の住民同士の交流を目的とした「茶道交流会」であったが、その目的は十分に達成することができた。参加者はご年配の方が多く、学生とのふれ合いもとても喜んでくださり、お茶を通して住民同士、住民と学生との心の交流をはかることができた。この活動の成果は「支援をしにいったはずが、それ以上のものを受け取ったような気がします」という学生の言葉にも表されている。

【課題】お道具の搬送、受け渡しをスムーズに行えるよう、関係団体と連絡を密にしたい。

（注）１．記述が枠内に収まらない場合は、枠を拡大してください。

２．事業内容がわかるような資料や写真などがあれば添付してください。
報告書（添付書類を含む）はＡ４判５枚以内にまとめてください。

３．この報告書は、各関係機関等に公表するともに、大学コンソーシアムとちぎのホームページへの掲載を考えております。また、次年度以降の学生活動支援事業に役立てていきたいと思います。